

実践教育

- 「実践教育」を学びの基本として、地域農業のリーダーとなる人材育成を教育目標
- 学生一人一人の主体性を育みながら望ましい就農観を醸成
- 各地より農業への熱い思いをもった学生が集い、「未来の担い手」を目指している

本県の水田農業を支える

水田経営学科2年 菅野 辰弥



福島県の米を支える担い手になります！

私の実家では水稲とトマトを生産しており、本校を卒業後は両親の農業を継ぎたいと考えています。そのため知識と技術を身につけ仲間づくりをするために、本校への入学を決めました。就農後には、水稲の大規模化とトマトハウスの増設をしていきたいと考えています。大規模化するために必要な知識と技術を得るための経験が本校の実習や授業の中で学んでいます。私は、福島県外の人達にも私の育てたものを食べてもらい喜んでもらえる農業者になりたいと思っています。

花き生産を支える人材に

花き経営学科2年 設楽 芳毅



高品質な花を生産していきます！

私の実家は水稲とユキヤナギなどの切り花を生産しており、将来経営を引き継ぐために本校に進学しました。就農時にシンテッポウユリの栽培を開始するため、卒業論文ではシンテッポウユリの播種時期をずらし、需要のピークである旧盆に開花の盛期を迎えられるかを調査しています。ここでの学びを活かし、将来は農林水産大臣賞を取れるユリを栽培し、地域農業の活性化に努めたいと思います。

地域を支える生産者を目指して

野菜営学科2年 鈴木 真央



栽培から販売まで、実践的な知識・技術が学べます！

私は将来、実家で祖父母が経営するキュウリ生産を引き継ぐために必要な知識や技術を身に付けたいと思い、本校への進学を決めました。実習では仲間と協力しながら、野菜の生産から販売までの作業に取り組み、充実した学校生活を送っています。また卒業論文では、キュウリの養液栽培に取り組み、培地や栽培方式の違いが及ぼす影響を調査し、安定した収量、品質の確保を目指しています。卒業後は、経営規模の拡大や収量、品質の向上を目指し、より多くの人に自分の生産したキュウリを届けられるよう頑張りたいです。

果樹専門農家の伝統を継ぐ

果樹経営学科2年 菊地 聡



技術力と経営力が身に付けられます！

私の実家は、果樹専門農家で、ブドウを中心にナシやモモを栽培しています。幼少の頃からの夢だった「父の跡を継ぐ」という念願から、本校に入学しました。現在は、果樹栽培の技術や知識を習得するため、何事にも意識をもって日々の実習等を行っています。卒業論文では、これまで有核栽培が一般的だった「ナイアガラ」という品種に着目し、近年消費者志向の高い無核栽培が可能かどうかということを研究しています。将来は、経営規模を拡大しながら、安全・安心な果実を生産していくとともに、地元の農業を支える人材になりたいと思います。

牛と働くために

畜産経営学科2年 菅野 ひかり



たくさんの人に牛のことを知ってもらいたいです！

私は、小さい頃から動物が好きで農業高校に入学し、そこで初めて牛に触れたときから「これを仕事にしたい！」と思い、本校に入校しました。学科では、乳用牛・肉用牛について学ぶことができ、牛の管理や経営について知識を深めています。卒業後は、ここで得たものを活かし、県内の和牛繁殖経営の法人に就職します。福島県の農業に貢献できるように頑張りたいと思います。